

## 研究主題 知的障害がある生徒の体力・運動能力と健康意識に関する研究 ～ベースボール型競技の普及に向けた実践と課題②～

### I 団体の概要及び研究の背景

東京都知的障害特別支援学校・特別支援学級設置学校を対象に、体育・保健体育に関する研究の推進と共に、各種競技の普及、スポーツを通じた交流機会の企画・振興を図ることを目的とした団体である。団体発足の直接の契機は、昭和34年の第1回特殊学級球技大会(参加校…青鳥養護学校、荒川一中他10学級程度)である。以後、現団体名に至るまでに、運営方法や団体名が変わりつつも「知的障害のある児童生徒にも、多くの運動・スポーツの機会を」という発足当時の願いを引き継ぎ、知的障害のある子どもにとって分かりやすいルールや運営方法について研究を重ねてきた。現在では、陸上競技、キックベースボール、ソフトボール・ティーボール、バスケットボール、サッカー、バレーボールの各種大会や指導者講習会等、年間を通じて主催している。

令和4年度からは、保健体育授業、運動部活動の指導、各種競技大会の充実に向けて、体力・運動能力等の実態把握、体育・スポーツ、健康に関する本人意識に関するアンケート調査等、基礎的調査も実施し、知的障害のある児童生徒の実態の見直しを図っている。

本連盟が令和5年度に大学との共同研究実施した、体力・運動能力とヘルスリテラシー※との関係性についての分析では、ヘルスリテラシー(12項目)と体力・運動能力、「高い群」「低い群」ともに同様の傾向(「高い群」の方が「低い群」と比して、「簡単」「やや簡単」といった肯定的な回答)がみられた。

特別支援学校学習指導要領の第1章総則第2節教育課程の編成では、学校における体育・健康に関する指導について、「生徒の発達段階を考慮して、学校の教育活動全体を通じて適切に行う」としている。特に、「学校に

おける食育の推進並びに体力の向上に関する指導、安全に関する指導及び心身の健康の保持増進に関する指導については、保健体育科、家庭科及び特別活動の時間はもとより、各教科・科目、総合的な探究の時間及び自立活動(知的障害者である生徒に対する教育を行う特別支援学校においては、各教科、道徳科、総合的な探究の時間及び自立活動)などにおいてもそれぞれの特質に応じて適切に行うよう努めること」とされている。特別活動との関連においては、部活動の意義についても触れられており、「学校教育の一環として、教育課程との連携が図られるよう留意すること」と述べられている。今後は学校教育を通じていかにヘルスリテラシーを醸成していくかについての検討が必要である。

その意味で、本連盟が主催している「東京都特別支援学校・特別支援学級設置学校 総合体育大会」は、生徒の健康意識、生涯にわたりスポーツと関わる意欲を育むために、重要な位置づけを担っているといえる。

※「ヘルスリテラシー」

⇒「よい健康状態を推進して維持させられるような、情報にアクセスし、理解し、利用するための個人の意欲と能力を決める認知的社会的スキル」

Don Nutbeam(2000)



## II 研究の目的

本研究では、以下の2点について明らかにし、今後の会運営、特別支援学校・支援学級での指導の方向性を見出すことを目的とする。

- i フット・キックベースボール大会参加者の満足度の把握
- ii 教員の指導時における工夫した点、生徒の変容について

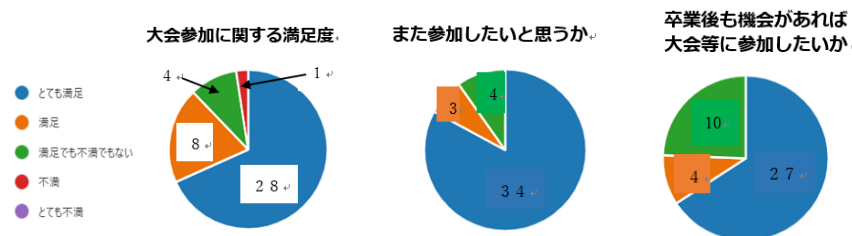
## III 研究方法

i については、9月19日に駒沢競技場で開催されたキックベースボール大会に参加した高等部生徒41名に、満足度等に関するアンケートを実施した。

ii については、二次元コードアンケート解答欄への自由記述とキックベースボール部会(10/25)にて、教員間で意見交換を行い、内容を分類して整理した。

## VI 結果

### i. 参加者(高等部生徒)の満足度と卒業後の運動継続の意欲



### ii. 指導時の工夫や意識、生徒の変容について

主な意見	生徒の変容について
・攻守のあらゆる場面を設定した練習	・繰り返すことで試合でも汎化できた。
・ベースを踏むと音が出るようにする。	・障害程度が重度の生徒の意欲が増した。
・蹴られたボールの状況を見て走る練習	・フライアウトで間違った進塁が減った。

## V 今後の課題と展望

### ○参加者(当事者)の意識に即した大会運営

参加者の約87%が「満足」以上の回答をしており、卒業後このような機会があれば参加したいと約77%であった。特別支援学校を卒業した社会人の仲間が集うクラブでの練習参加を促す等、情報を本人、家庭、学校とで在学時代から共有できるようなシステムを構築したい。

### ○各学校での指導の取組とその方向性

当団体の一昨年の調査によれば、特別支援学校高等部生徒の投能力については、同年代の通常校の生徒と記録と比較すると、他の項目よりも著しく差があることが明らかになっている。授業や部活動でフット・キックベースボールの活用を増やし、障害の程度に関わらず、ベースボール型競技への興味や関心が高まるような土台づくりが引き続き必要。この点については、引き続きの課題としつつ、ベースボール型スポーツをするだけでなく、見る、応援するといった楽しみにつなげていくことが、生涯にわたりスポーツと関わる態度の育成につながると考えられる。

### <令和6年度連絡先>

団体名		東京都特別支援学校・特別支援学級設置学校体育連盟	
代表者	所属	東京都立葛飾特別支援学校	
	職氏名	校長 村山 大介	
	連絡先	03-3608-4411	
事務局	所属	東京都立港特別支援学校	
	職氏名	指導教諭 石川 敦士	
	連絡先	03-3471-9191	
団体ホームページ	URL	—	二次元コード
		—	—